



日本共産党市議会議員
松村ヤス子の
市議会報告

2013年4月

大手5紙・在京TV トップ

首相と会食 マスコミさん 権力の監視は大丈夫？

安倍首相は首相就任以来、大手5紙のトップとの会食しながらの懇談を続けてきました。

1月7日

東京・丸の内のパレスホテルの高級割烹
渡辺恒夫・読売新聞グループ本社会長

1月8日

コンチネンタルホテル内の日本料理店
産経新聞の清原武彦会長、熊坂隆光社長

2月7日

帝国ホテル内の中華料理店
朝日新聞の木村伊量社長

2月15日

東京白金台の高級割烹「壺中庵」
共同通信社の石川聡社長

3月8日

帝国ホテル内フランス料理店
日本経済新聞社の喜多恒夫社長

3月15日

芝公園のフランス料理店
フジテレビの日枝久会長（フジサンケイ・メディアグループ最高経営責任者）

3月22日

椿山荘内の日本料理店「錦水」
毎日の朝比奈社長

欧米では不文律

欧米メディアには、現職メディア経営者は現職大統領、首相在任中は接触を控えるのが不文律とする例があります。

政治の最高権力者が接触を求めるのは政治的な意図がないはずはなく、無防備に合うのは権力との癒着につながったり、不明瞭な関係がメディアの信頼性を損ない、ひいては民主主義社会を支える「国民の知る権利」がゆがめられる恐れがあると考えられるからです。

日本新聞協会 新聞倫理綱領は

日本新聞協会が定める新聞倫理綱領は、国民の知る権利は「あらゆる権力から独立したメディアの存在」によって保障されると明記しています。自分たちで決めた「倫理綱領」にてらして疑問の声が出なかったのでしょうか。

一連の首相と大手紙トップとの会食懇談の結果として、新聞に対する消費税の軽減税率適用がほぼ固まったとも新聞界の一部で伝えられます。恩恵を受ければ、受けた相手に対する筆も鈍るというものです。

新聞の権力監視機能は著しく低下しているとは最近のジャーナリズム論のものはや「定説」です。首相との懇談を受けて、各紙の憲法報道に影響が表れてくるだろうとの指摘が新聞界にはあります。

社トップが安倍首相と数時間も懇談した各紙は、報道姿勢との関係を購読者に説明する責任を負っているのではないのでしょうか。

毎回、ほぼ2時間を超える長談義に及んでいます。日時は、異なりますが、政治権力者との会食懇談の席に「権力の監視役」であるべき大新聞の社長が、これほど同じように、肩を並べている姿は、異様に

権力の監視役であるはず
これでいいのでしょうか

プが首相と会食懇談した日程は翌日の紙面に『首相の

動静』として掲載される。同じ紙面に首相批判の記事は載せにくいもの」と、首相と新聞社トップの懇談は、取材現場の記者に無言の影響を及ぼしていると指摘しています。